

嵐山町総合戦略 検証結果 (令和5年度)

令和6年12月

基本目標1

雇用をつくる <安心して、いきいきと働けるまち>

■基本的方向

- 農業を中心とした産業の活性化を図ります
- 新たな企業誘致や町内企業への支援により安定した雇用を創出します
- 就労機会の拡充を図ります

■数値目標

	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
町内総生産額	85,652 百万円	90,000 百万円	94,388 百万円 (R6 年度 発表)				
納税義務者数	8,276 人	8,500 人	8,387 人	8,455 人	8,451 人		

■重要業績評価指標(KPI)

農業を中心とした産業の推進							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
農産物直売所における農業者の売上高	179 百万円	200 百万円	180 百万円	180 百万円	165 百万円		
嵐山産小麦農林 61 号を使った商品の売上高	24,174 千円	70,000 千円	46,612 千円	56,425 千円	54,330 千円		
千年の苑ラベンダー農園による経済効果 (DMO)	175,555 千円	161,310 千円 (R3 年度)	69,007 千円	105,003 千円	233,156 千円	—	—
千年の苑ラベンダー農園の来場者数 (DMO)	75,646 人	100,000 人 (R3 年度)	2,279 人	30,509 人	33,295 人	—	—
千年の苑観光手芸用施設利用者数 (DMO)	156 人	1,420 人 (R3 年度)	57 人	73 人	1,027 人	—	—
新たな企業誘致と町内企業への支援による雇用の場の確保							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
企業誘致事業による立地及び拡張企業数 (累計)	—	3 件	0 件	1 件	2 件		
新規創業者数及び第二創業者数 (累計)	—	3 件	2 件	<u>10 件</u>	<u>12 件</u>		
人材確保のためのマッチング支援事業実施数(累計)	—	3 件	未実施 (コロナ)	1 件	4 件		
潜在的な働き手の確保							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
待機児童数	9 人	0 人	0 人	0 人	0 人		

■施策の内容

○農業を中心とした産業の推進

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの影響が長期化する中、燃料・肥料・資材等の高騰で影響を受けている町内販売農家へ国の臨時交付金を活用し、経済的負担の軽減と農業経営の安定化を図るため支援をした。(農政) ・観光農業の推進を図るため、嵐山町観光協会と協力し「らんざんラベンダーまつり」を開催した。開催期間6月9日～6月25日(企業支援) ・観光客が年間を通じてラベンダー園に来ていただけるよう、ラベンダー園の一部にポピーや千日紅を植栽した。(企業支援) ・ラベンダーまつりの収益性を確保するため、摘み取り体験料の値上げ、シャトルバスの運行、生花の販売、子供料金の徴収等を行った。(企業支援) ・町民のシビックプライド醸成のため、まつり終了後に町民対象の摘み取り体験イベントを実施したほか、町民の方がラベンダー園の一部エリアでラベンダーを育てるマイラベンダークラブの運営管理・新規募集等を行った。(企業支援) ・ラベンダー園周辺の嵐山溪谷や親水公園、らんざん都幾川学校橋広場の美観維持のため、定期的な除草作業を行ったほか、パンフレットやSNS等で観光資源の周知を図った。(企業支援) ・千年の苑観光手芸施設を活用し、ラベンダー苗づくり講習を10月11日、ポトルフラワー教室を12月15日、手芸講師養成研修を1月27日、1月31日に開催した。(企業支援) ・住民参加のボランティアとして町の観光名所等を紹介し、維持管理に協力する嵐山町観光応援隊を結成した。(企業支援)
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町内販売農家へ支援を行うことで経済的負担軽減となり生産者の生産意識が高まりや農業経営の継続につながった。(農政) ・「らんざんラベンダーまつり」に32,740人の来場者があった。入場料、駐車場、摘み取り体験、手芸教室、お土産品等(ラベンダー開発商品・肉汁うどん等)による収入があったほか、イベント会場に25事業者が出店し、嵐山町観光協会会員及び嵐山町商工会会員に対しても稼げる場を提供することができた。また町民のシビックプライド醸成の一助となった。(企業支援) ・ラベンダーまつりの来場者の増加、収益性が向上したことにより、収支が329万円の黒字となった。(企業支援) ・町民対象の摘み取り体験イベントに62名が参加したほか、マイラベンダークラブ会員及び一般町民対象に、ポトルフラワー作り教室、挿し木教室、手芸講師養成講座を開催した。(企業支援) ・嵐山町観光応援隊に18名が参加し、草刈作業や観光施設運営補助等を行った。(企業支援) ・手芸施設を活用し各種講習会を開催することで、次年度以降のラベンダーまつり等で行うイベント(ラベンダースティックづくり教室など)における講師の確保及び養成ができた。(企業支援)

<p>課題として残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農畜産物加工施設が新たな使用者に変わったことで農産物直売所の弁当や総菜など加工品に対する需要をどう拡大していくかが課題となっている。(農政) ・小麦の生産面積は、乾燥調製、製粉対応が可能である最大量の13.8haとなっている。今後、協賛店からの需要に応じた小麦の生産及び提供が課題となっている。(農政) ・ラベンダーまつりの運営について来場者より、入場口が遠い、駅からのバスが少ない、イベント広場の足元が悪いなどの指摘があった。(企業支援)
-------------------	---

○新たな企業誘致と町内企業への支援による雇用の場の確保

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・花見台工業団地拡張地区において、事業推進のため県企業局、庁内関係機関及び地元権利者等と必要となる調整を行った。(企業支援) ・川島地区における組合土地区画整理事業の設計に向けて業務代行予定者と連携し関係機関等との協議・調整を行った。(企業支援) ・創業を考えている、また開業して間もない方を対象にらんざん創業塾を開催し、令和5年度は6名の参加があった。(企業支援) ・商工会と協力し、嵐山町空き店舗等活用事業費補助金の活用を図った。(企業支援) ・昨年実施していた企業就職説明会を発展させ、当日採用面接も実施できるよう、ハローワーク・埼玉県と協力し、嵐山町企業就職相談会を開催した。(企業支援)
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・花見台工業団地拡張地区において、県企業局による造成工事が進捗している。(企業支援) ・川島地区における組合土地区画整理事業の設計に向けた調査等が進捗している。(企業支援) ・菅谷地内において、ドラッグストアが立地し操業が開始された。(企業支援) ・らんざん創業塾の受講者より、2名の創業者が起業した。(企業支援) ・嵐山町空き店舗等活用事業費補助金を2事業者(新規創業者を含む)に交付し、駅前の空き店舗の活用が図られ、賑わい創出の一助となった。(企業支援) ・昨年の企業就職説明会を発展させ、当日の採用面接を可能としたことにより、企業と求職者のミスマッチが解消された。10企業、27名の求職者が参加し、最終的に5名の採用につながった。(企業支援)
<p>課題として残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・花見台工業団地拡張地区については、造成工事完了とその後の企業立地に向けて県企業局と一層の連携が求められる。(企業支援) ・川島地区については、設計に向けて業務代行予定者と連携し関係機関等との協議を進めて行く必要がある。(企業支援) ・新規創業を助成していた小規模事業者等販売促進支援事業費補助金は、国によるコロナ対策補助を活用した事業であったため、令和5年度で終了した。支援の継続性が課題となっている。(企業支援) ・嵐山町企業就職相談会への更なる求職者の来場が課題となっている。(企業支援)

○潜在的な働き手の確保

実施したこと	・シルバー人材センターにおいて、新規入会者の募集を積極的に行った。また、高齢化する会員の退会抑制を実施した。(長寿生きがい課)
効果が あったこと	・シルバー人材センターへの新規入会者 20 人(前年度比 15 人増)を得た。退会者を差し引くとトータル 6 人の減であったが、令和 4 年度トータル 21 人減から大幅に減少を抑えることができた。(長寿生きがい課)
課題として 残ったこと	・シルバー人材センターの退会者数の抑制はできたが、前期高齢者数は減少傾向であることから新規会員の確保は依然として困難な状況である。(長寿生きがい課)

基本目標 2 人の流れをつくる <地域資源を活かした魅力あるまち>

■ 基本的方向

- 町の知名度の向上を図り、嵐山町を応援してくれる人の増加を目指します
- 嵐山町への観光客を増やし、関係人口の増加を図ります
- 観光地域づくり法人（DMO）の登録を目指す観光協会と連携し地域の活性化を図ります

■ 数値目標

	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
公式 X (旧ツイッター) フォロワー数	1,263 人	3,000 人	1,801 人	2,262 人	2,651 人 (R6. 8. 31)		
入込み観光客数の増加	436,163 人/年	480,000 人/年	196,112 人/年	312,135 人/年	349,473 人/年		

■ 重要業績評価指標 (KPI)

積極的な情報発信による知名度の向上							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
嵐山溪谷バーベキュー場の来客者数	73,884 人/年	100,000 人/年	31,285 人/年	44,647 人/年	45,615 人/年		
杉山城跡の来客者数	11,300 人/年	12,000 人/年	11,500 人/年	11,600 人/年	9,600 人/年		
ホームページ閲覧回数 (DMO 開設サイト)	—	660,000 ヒット	575,915 ヒット	777,747 ヒット	1,390,903 ヒット		
駅前を拠点とした新たな賑わいの創出							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
地域活力創出拠点の物産売場での売上高	2,391 千円	61,020 千円 (R3 年度)	5,721 千円	7,031 千円	6,545 千円	—	—
地域活力創出拠点の来客者数	327,000 人	339,000 人 (R3 年度)	267,000 人	284,000 人	288,000 人	—	—
地域活力創出拠点の観光情報発信による経済効果	187,437 千円	255,270 千円 (R3 年度)	48,060 千円	51,120 千円	51,840 千円	—	—
観光×農業による地域資源の魅力創出							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
交付対象事業による施設の利用者数 (DMO)	—	161,500 人	62,844 人	103,779 人	103,549 人		
交付対象事業による売上高 (DMO)	—	71,928 千円	28,715 千円	77,057 千円	105,561 千円		

地元産品による新規開発 商品数 (DMO)	—	9 商品	8 商品	1 商品	0 商品		
--------------------------	---	------	------	------	------	--	--

■施策の内容

○積極的な情報発信による知名度の向上

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのリニューアルを行った。検索性を高め、目的の情報に速やかにたどり着けるよう、トップ画面のアイコンを減らした。(地域支援課) ・広報嵐山の表紙について、多くの町民の目に留まり、手に取ってもらえるよう、カラー表紙にした。(地域支援課) ・嵐山町出身のプロサッカー選手である、黒川淳史選手に嵐山町 PR 大使に就任していただき、LINE、X で配信した。(地域支援課) ・嵐山町 PR 大使でプロサッカー選手の小池純輝選手と黒川淳史選手の動向を X で配信した。(地域支援課) ・ツイッターや広報紙、ホームページ、駅のデジタルサイネージなどを活用し、年間を通して生活に必要な情報や町の魅力を発信した。(地域支援課)
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ツイッターを活用し、積極的に嵐山町の魅力を発信したことでツイッターのフォロワー数が 389 人 (R4 年度末～R6. 8. 31) 増加した。(地域支援課) ・杉山城跡については、町からの情報発信、テレビ報道や旅行関連刊行物等のメディアにとりあげられたことにより継続的な賑わいを見せており、大型バスによるツアーのコースにも組み込まれる等、年間を通じて見学者等が絶えない状況である。高度な築城技術と保存状態の良い史跡であることについてより多くの方々に PR できた。(生涯学習)
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・Twitter、LINE を活用し情報を発信する課が限られているため、全庁的に発信ができるよう各課への呼びかけが必要である。(地域支援課) ・新聞、テレビ等の各種メディアをより効果的に使い、知名度の向上を図る必要がある。(地域支援課) ・アクセス道路の案内板、史跡内の看板類や散策路等の修正・整備、史跡の保護対策を行う上で「杉山城跡保存活用計画」等の計画策定が求められている。(生涯学習)

○駅前を拠点とした新たな賑わいの創出

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・嵐山町ステーションプラザ「嵐なび」において、観光協会作成グッズ、町特産品、杉山城御城印、ラベンダー製品等の販売を行った。(企業支援) ・商工会と協力し、嵐山町空き店舗等活用事業費補助金の活用を図った。(企業支援) ・駅前の 5 店舗が加入する嵐山町商店会が新たに組織された。(企業支援) ・空き家、空き店舗、空き地等を活用して、町民の暮らしの中に「ちょっと楽しい、ちょっと面白い、ちょっと心地よい」を感じる魅力的なエリアを創出するためのプロジェクト「Emo-Town. Pro#らんざん (エモタウンプロジェクト)」を行っている。(まちづくり) ・嵐山町エリアリノベーション支援事業は 4 年目となった。エリアリノベーション
--------	---

	<p>事業推進要綱に基づき、町のエリアリノベーション事業を継続して推進する意思のある個人2名の方より提案企画書に基づくイベントが開催され、支援を行った。イベントの内容は、武蔵嵐山駅連絡通路でマーケット5回、菅谷公園にて親子フリーマーケットを2回開催した。また東京電機大学の助教を講師に迎え講演会を1回開催した。(まちづくり)</p>
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・嵐なびにおける委託販売先が増え、12会員の商品を販売している。(企業支援) ・嵐山町空き店舗等活用事業費補助金を2事業者(新規創業者を含む)に交付し、駅前の空き店舗の活用が図られ、賑わい創出の一助となった。(企業支援) ・嵐山町商店会が、商工会を介して駅周辺にある町有地を駐車場として借り上げ、買い物客の利便性を高めることができた。(企業支援) ・町のエリアリノベーションの実現に向け、まちのプレーヤー発掘や支援を行い、イベント等が実施され、「ちょっと楽しい、ちょっと面白い、ちょっと心地よい」まちへと進むことができた。(まちづくり)
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活力創出拠点である「嵐なび」において、特産品の販売点数及び委託販売する町内事業者をさらに増加させる必要がある。(企業支援) ・「Emo-Town. Pro#らんざん」プロジェクトでは、令和6年度以降も継続的なイベントが実施され、「ちょっと楽しい、ちょっと面白い、ちょっと心地よい」エリアの醸成が目的である。また、本事業は民間事業者が主導し、原則、補助金に頼らず、自らの資金で魅力的なエリアを創出することとしており、エリアプロデューサーの発掘や育成が課題となっている。(まちづくり)

○観光×農業による地域資源の魅力創出

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・観光農業の推進を図るため、嵐山町観光協会と協力し「らんざんラベンダーまつり」を開催した。開催期間6月9日～6月25日(企業支援) ・せっけん製造会社とコラボレーションし、ラベンダー精油抽出の副産物である芳香蒸留水を使用したラベンダーハンドソープの商品開発を観光協会と協力して進めた。(企業支援) ・杉山城跡については、パンフレットを役場庁舎ロビー特設コーナー及び杉山城跡入口(外郭)看板脇において通年の無償配布を実施し、また町公式ホームページ上にもPDFを掲載し、見学者等の知識向上に対する利便を図った。(生涯学習) ・「嵐山溪谷紅葉まつり」を11月25・26日に開催した。(企業支援) ・嵐山町町名発祥の地である嵐山溪谷につながる槻川沿いの遊歩道からラベンダー園周辺一帯の除草作業を行い、観光客や町内の方の憩いの場を確保した。(企業支援) ・水辺アクティビティを実施する河川区域を商業利用するため、河川利用調整協議会を開催し、都市・地域再生等利用区域の指定変更要望書の提出について承認を受けた。また、事業実施のための船着場の整備を埼玉県に依頼するため、槻川水辺deベンチャーチャレンジ事業計画書を提出した。(企業支援)
--------	--

<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「らんざんラベンダーまつり」に 32,740 人の来場者があった。入場料、駐車場、摘み取り体験、手芸教室、お土産品等（ラベンダー開発商品・肉汁うどん等）による収入のほか、イベント会場に 25 事業者が出店し、嵐山町観光協会会員及び嵐山町商工会会員に対しても稼げる場を提供することができた。また町民のシビックプライド醸成の一助となった。（企業支援） ・ラベンダーハンドソープの商品開発に向け、まつり後に収穫したラベンダーより抽出した芳香蒸留水及び観光協会が保有するラベンダー精油をせっけん製造会社に販売した。（企業支援） ・「嵐山溪谷紅葉まつり」に 2,707 人の来場者があった。多くの方が嵐山溪谷の紅葉を満喫したほか、イベント会場での食事や買い物を楽しんだ。（企業支援） ・嵐山溪谷バーベキュー場から飛び石を渡り、嵐山溪谷までの槻川沿いの遊歩道は、嵐山町の自然を身近に感じてもらう遊歩道として多くの方が散策している。（企業支援） ・水辺アクティビティについて、都市・地域再生等利用区域の指定の変更の許可を受けた。また、槻川水辺 de ベンチャーチャレンジ事業計画書を提出し、バーベキュー場上流の飛び石付近に船着場が整備された。（企業支援）
<p>課題として 残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ラベンダー園運営について、今後も引き続き観光協会と連携を密にし、ラベンダー事業全体の黒字化を目指しつつ持続可能な事業展開が求められている。（企業支援） ・嵐山溪谷周辺において引き続き良好な自然を堪能できるよう、遊歩道等を適正に維持管理するための財源確保と斜面の除草ができる業者の確保が課題である。（企業支援） ・水辺アクティビティの実施に向けた基盤が整い、事業実施に向けて観光協会による具体的な運営方法の検討を進める必要がある。（企業支援） ・杉山城跡については、大型バスを利用した見学ツアーの問い合わせがあるのに対し、トイレや駐車場施設が現状で満足な対応ができていない。トイレの改修や駐車場入口及び舗装状況の改善等が必要である。（生涯学習）

基本目標 3 安心して結婚・出産・子育てができる社会をつくる <親子の笑顔があふれるまち>

■ 基本的方向

- 結婚の機会拡大と安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めます
- 夢と希望を持って成長していけるまちを目指します

■ 数値目標

	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
合計特殊出生率	0.87	1.13 (R05年度)	0.87 (R01年度)	0.97 (R02年度)	0.85 (R03年度)		
地域子育て支援 拠点の年間利用者数	4,806人	5,700人	5,784人	5,536人	5,309人		

■ 重要業績評価指標(KPI)

結婚・妊娠・出産への総合的な支援							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
乳幼児健康診査受診率	97.5%	100%	98.7%	99.3%	98.9%		
法定外予防接種の受診率	80.8%	85%	64.9%	67.5%	41.3%		
子育て支援の充実							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
待機児童数	9人	0人	0人	0人	0人		

■施策の内容

○結婚・妊娠・出産への総合的な支援

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産婦健康診査の助成を対象者全員に実施した。（健康いきいき） ・妊娠時から出産・子育てまで一貫した伴走型相談支援として、面談や訪問を継続して実施した。（健康いきいき） ・乳幼児健診や各種相談、教室等、新型コロナウイルス感染症対策を万全に実施した。（健康いきいき） ・高校3年生を対象としたインフルエンザ法定外接種の費用助成を新設した。（健康いきいき） ・中学3年生を対象としたインフルエンザ法定外接種の費用助成を継続した。（健康いきいき） ・1～3歳児を対象としたおたふくかぜについての費用助成を継続した。（健康いきいき） ・出生1人につき5,000円を子育てファミリー応援金として支給。（福祉課）
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代包括支援センター（健康増進センター）に保健師、看護師、管理栄養士、保育士等の専門職が常駐し連携・情報共有しながら全ての母子を見守る体制が整ったことにより、育児不安の軽減、児童虐待の防止につながっている。（健康いきいき） ・言語聴覚士、理学療法士、作業療法士による相談や教室の開催回数の増加により、支援を要する母子の利用人数の拡充を図ることができた。（健康いきいき） ・個別通知で乳幼児健康診査の受診を勧めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を万全とすることにより、健診受診率を100%にさらに近く維持することができた。未受診者に対しては、電話、訪問、保育園からの情報等で状況把握している。（健康いきいき） ・子育て世帯への経済的負担軽減を図ることが出来た。（福祉課）
<p>課題として 残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出生率の低下に反して不安や負担を抱えながら子育て等を行う家庭が増えている。子どもの養育だけではなく、保護者自身が支援を必要とする家庭に対し、関係機関と連携をとった支援体制がさらに必要となっている。（健康いきいき）

○子育て支援の充実

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園内の遊具については、法令による定期点検を専門業者に委託し実施した。児童公園内の遊具については、点検研修を受けた職員による老朽化の状況の確認を年1回行っている。また、地区から要望のある遊具については、塗装修繕等を行った。（まちづくり） ・子育て負担が多い乳幼児期の遊びを支援することを目指し、令和4年度に利用者のワークショップを開催し、その意見に基づき駅西公園のリニューアル工事を行った。工事においては、埼玉県ふるさと創造資金を活用した。リニューアル工事の
---------------	---

	<p>内容は、駅西公園内のゴムチップ舗装化及び乳幼児対応の遊具の設置である。また、より親しみやすくするため公園の愛称を募集した。28名の方から応募があり、愛称検討委員会を開催し、「らんまるパーク」とすることに決定し、看板も設置した。(まちづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> 菅谷公園は、令和4年度に道路に張り出した老木化した桜の伐採を行い、関係者と協議し、河津桜と十月桜を新たに植樹した。令和5年度は、平成16年度設置したが近年は利用もなく休止していた水遊び場を利用しやすいように修繕を行った。(まちづくり)
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 剪定・伐採や遊具の点検不要な、危険な遊具の撤去など公園の維持管理を適切に行うことで、安全性が確保された。(まちづくり) 町の玄関口である駅前広場整備に併せ、東西連絡通路にある子育て支援施設「嵐丸ひろば」と連携できるよう低年齢児向けの公園の整備を行ったことにより、更なる子育て支援の対応が図られた。(まちづくり) 全面ゴムチップ化することにより、頻繁に除草作業をしなければ利用できない公園であったが、通年利用できるようになった。(まちづくり) 平年と比較し気温が高い夏等が続いている。菅谷公園に簡易に水遊びができるよう修繕したことにより、水遊びがしたいとの声に対応できるようになった。(まちづくり)
<p>課題として 残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 医療費助成対象の拡大など経済的負担軽減は、子育て施策としての結果がすぐには表れないため、継続した支援が必要となる。(福祉課) 支援を必要としている家庭が増えてきており、相談業務やケースワークに携わる人員確保が課題となっている。(福祉課) 児童公園の遊具については、老朽化が進み、利用できない遊具は撤去したが、今後も予備軍が多数存在する。点検結果や利用状況を勘案し地区と相談しつつ、修繕・撤去等を含め対応する必要がある。(まちづくり) 駅西公園には、低年齢児用遊具を増やしたが、町民からは、引き続き大型遊具等の設置の要望がある。大型遊具等の設置とともに、遊具の集約化を行う必要がある。(まちづくり)

基本目標 4

住みよい環境をつくる <人が集い、魅力的な暮らしを営むまち>

■ 基本的方向

- 武蔵嵐山駅周辺の活性化を図ります
- 安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます
- 持続可能な質の高い暮らしの実現を目指します

■ 数値目標

	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
転入者数の増加 (社会増減累計)	329 人増 (H28-R01)	200 人増 (R03-R07)	41 人減 (R03)	36 人増 (R03-R04)	183 人増 (R03-R05)		
住みよいと思う 割合	76.8%	80.0%	—	—	—		

■ 重要業績評価指標 (KPI)

武蔵嵐山駅周辺エリアの充実							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
武蔵嵐山駅の乗降客数	7,287 人/日平均	8,500 人/日平均	5,942 人/日平均	6,328 人/日平均	6,405 人/日平均		
西口駅前広場の整備率	0%	100%	53.2%	88.9%	94.4%		
安全・安心な地域づくりへの取組							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
自主防災組織における防 災訓練の実施数	35 回/年	36 回/年	18 回/年	12 回/年	25 回/年		
災害時用保存食の備蓄量	6,766 食	8,000 食	7,454 食	7,570 食	8,270 食		
持続可能なまちの機能の充実							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
主体的な道路維持管理団 体数 (アダプトプログラム及び 嵐山まもり隊数)	24 団体	30 団体	32 団体	33 団体	36 団体		

■施策の内容

○武蔵嵐山駅周辺エリアの充実

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵嵐山駅西口の放置自転車に対する取り締まりを実施し、引き取り手のない車両の撤去処分を行った。(まちづくり) ・武蔵嵐山駅西口整備事業については、全て工事を発注し、駅前広場部分の工事は終了した。(まちづくり) ・武蔵嵐山停車場線沿線のドラッグストアの開業に併せ、町民の要望の高い県道の歩道の拡幅を行った。ドラッグストア予定敷地内の町の用地と交換することにより、1 m程度の歩道から 2.5m の歩道用地を生み出した。埼玉県により舗装等が行われた。(まちづくり)
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「嵐山町の玄関口の活力の復活」を目標とし、「武蔵嵐山駅西口の良いで魅力的空間の形成」、「武蔵嵐山駅周辺の環境整備と利便性の向上」を図るため、西口駅前が大きく変わり、機運の高まりがある。(まちづくり) ・町民から要望の高い武蔵嵐山停車場線の一部歩道の拡幅が図られ、児童・生徒がより安全に通行できるようになった。(まちづくり) ・武蔵嵐山駅西口の放置自転車の減少により、良好な環境を確保することができている。(まちづくり)
<p>課題として 残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵嵐山駅西口事業は、関係機関・隣地関係者との協議を早急に進め、工事を早期に終了させることが課題である。駅前広場の道路部分の工事は令和 6 年度で終了したが、大屋根・シェルター工事は、関係機関との協議に不測の時間を要したため、年度内に終了することはできなかった。令和 6 年中に菅谷 36 号線雨水管工事及び道路工事等を含めて完成させることを目指している。(まちづくり)

○安全・安心な地域づくりへの取組

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12 の自主防災会が合計 25 回の防災訓練を実施した。(地域支援) ・各防災会に訓練時の消防団の活用を呼び掛けた。(地域支援) ・災害協定を 3 社と追加締結した。(地域支援) ・R3 年度末に全戸配布したハザードマップ(防災地図)の内容説明等を地域に実施した。(地域支援) ・地域やPTA 等による下校の見守りをメインとしたパトロール活動を実施した。(地域支援) ・防災行政無線やメール配信サービス「嵐山町あんしんメール」を活用し、防犯情報等を町民へ提供した。(地域支援) ・新たな防犯灯(LED)については、地区の要望に対し、予算の範囲内において基準に見合った場所に設置することができた。今年度は 16 基設置を行った。(まちづくり)
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各防災会が自主的に訓練を実施することで、災害対策における意識を醸成できた。(地域支援) ・地域の防災訓練に消防団がサポート参加することで、相互の連携がより深まった。(地域支援)

	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の備えとなる災害協定を締結することで、災害時に入手が難しくなる物資等の確保が可能となった。(地域支援) ・防犯灯に設置により、犯罪の抑止や交通事故の防止に寄与していると思われる。(まちづくり)
課題として残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・災害協定については、大規模災害時に協定先がどこまで対応可能か不明確な部分も多いため、今後も協定先の拡充と幅広い業種との協定が必要である。(地域支援) ・道路照明灯など大型電灯はLED化されていない。今後のLED化するための費用の確保が課題である。(まちづくり) ・令和5年度は防犯灯の地区からの要望が多く、全ての要望に対応することができず、令和6年度に持ち越すこととなった。今後も財源の確保が課題となっている。(まちづくり) ・防犯灯LED化は、機器リースとして支払いを行っている。リースが終了した後の修繕については、10年が経過すると耐用年数が切れるため、修繕費用が必要となることが予想される。財源確保が課題である。(まちづくり)

○持続可能なまちの機能の充実

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度より開始した草の根的なボランティアである嵐山町まもり隊については、24団体275名が公園や道路などの環境美化活動、生涯学習分野でのボランティア活動を行った。(地域支援) ・里地里山の保全管理については、町内での活動団体(6団体)により、広野地内、花見台地内、菅谷地内、千手堂地内、鎌形地内他で活動が実施された。(環境課) ・美化清掃活動については、コロナ禍が明けたことにより例年どおり実施することができた。(環境課)
効果があつたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・「嵐山まもり隊」など地域住民の方のご協力により維持管理がされている公園・緑地が増加した。(地域支援) ・まもり隊については、昨年度より登録数が増え意欲的に活動いただいた。とくに除草作業等の活動が活発であり、必要物資の要請が増加した。結果、地域の環境美化の維持につながった。(地域支援) ・各団体が工夫した活動を行うことで、里山の維持管理が計画的に進められた。(環境課) ・春と秋の美化清掃活動では多くの町民が参加し、快適で美しく清潔な居住環境を整えるといった活動目的は達せられた。(環境課)
課題として残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・嵐山町まもり隊団体数を増加させるため、引き続きまもり隊の活動についてPRしていく必要がある。(地域支援) ・里山保全活動にあたり町等からの補助を要望している団体もあり、支援方法について検討する必要がある。また、各団体の構成員が高齢化しているので、後継者の育成と確保が課題となっている。(環境課) ・例年の参加人数には至らなかった。また、少子高齢化により高齢者のみ世帯が増加する見込みがあり、実施方法など検討し美化清掃活動を行っていく。(環境課)